

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：11301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2019

課題番号：17KK0041

研究課題名（和文）農村女性のエンパワメント：異分野融合の視点に基づく国際共同研究

研究課題名（英文）Gender Empowerment and Human Security: Toward Interdisciplinary Collaboration

研究代表者

高篠 仁奈（Takashino, Nina）

東北大学・農学研究科・准教授

研究者番号：80507145

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,700,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、農村女性の地位とジェンダーに関する権利意識を決定づける社会・経済的要因を明らかにし、ヒューマンセキュリティ（人間の安全保障）の観点から、女性のエンパワメント（能力・地位の向上）とジェンダー不平等をなくすために役立つ知見を探る。このため、経済学を基礎とした手法により、インドのMeghalaya州および、バングラデシュのクルナ州などを対象とした調査を実施した。ジェンダーに関する意識を決定づける要因は何か、現地NGO・政府が支援を行う上での制約とその解決法は何か、といった問題について、ジェンダー研究と地域研究等など異分野の研究者との討論を通じて国際ネットワーク形成を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が基礎とする経済学の手法は、社会現象に関する変数の関係性を検証できる。一方、地域研究者やジェンダーの専門家は地域と女性のエンパワメント問題に精通し異なる発想を持つため、議論・対話を通じて異なるアプローチを融合する試みには学術的な意義がある。また、国際共同研究を通じたネットワーク形成は本プロジェクトの重要な柱であるが、滞在期間中に研究者と学生らの訪問を受け入れ、帰国後も滞在中に築いたネットワークに基づき研究者を招いて研究会を開催し、学术交流の場を設けることができたことは、今後の研究連携と学生への教育に意義のあることであった。

研究成果の概要（英文）：This study identifies the socio-economic factors that determine rural women's status and awareness of their rights regarding gender and explores findings that can help to empower women (increase their capacity and status) and eliminate gender inequality from a human security perspective. For this purpose, an economics-based approach was used to conduct a survey in the states of Meghalaya, India, and Khulna, Bangladesh. Through discussions with researchers in different fields, such as gender studies and regional studies, we formed an international network on issues such as what factors determine attitudes toward gender and what are the constraints and solutions for local NGOs and governments in providing support.

研究分野：農業経済学

キーワード：農業経済学 ジェンダー

### 1. 研究開始当初の背景

(1) これまで行ってきた研究課題(基課題)では、農村女性の地位と権利意識を決定づける社会・経済的要因を明らかにし、女性のエンパワメント(能力・地位の向上)に役立つ知見を探るため、経済学的アプローチによる研究を行っていた。その際、女性の地位向上を主目的として発展したジェンダー研究と、宗教や伝統的慣習を熟知する地域研究の視点を取り入れ、異分野融合の視点を取り入れた研究を行う必要性が生じた。

(2) 本研究が基礎としているアプローチである経済学的手法は、社会現象に対して様々な仮定を置きながら、重要な変数を取り上げて関係性を数量的に検証することができるなどの利点を持つ。一方、地域研究者は各地域のスペシャリストであり、調査地での強固なネットワークを持つ。また、ジェンダーの専門家は女性のエンパワメント問題に精通しており、経済学者には思い至らない発想が期待される。しかし、経済学と地域研究やジェンダー研究では、専門用語や調査・分析手法が異なるため、アプローチを超えた協働が非常に難しいことも事実であり、異分野融合研究を進める上での制約となっている。しかし、異分野の連携が実現すれば新たな知見が得られるため、地域研究者・ジェンダー研究者との議論・対話を通じて異なるアプローチを融合する研究を推進し新たな学術領域を開拓することが求められている。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究では、これまで行ってきた調査・分析を異分野融合の視点から強化し、具体的には、インドの Meghalaya 州農村を主な事例としながら、女性の地位・意識を決定づける要因は何か、支援プログラムに参加すると意識の変化が起きるのか、その決定要因は何か、現地 NGO・政府が支援を行う上での制約とその解決法は何か、といった問題を明らかにする上で、異分野の視点を取り入れながら調査研究を行う。

(2) 国際共同研究を通して独立した研究者としての国際的なネットワークを広げ、研究力を向上させることを目指す。国際共同研究を通じて形成されるネットワークを活かし、今後、独立した研究者として異分野融合連携を進めるだけでなく、教育を通じた国際研究交流も推進する。渡航前から、アジア・アフリカ各国からの留学生と研究を行ってきたが、彼らの研究指導を行う上で、学際的な研究者との連携は非常に有用であり、国際共同研究を通じて形成されるネットワークを今後の研究指導にも生かす。

### 3. 研究の方法

(1) 海外所属機関での日常的な討論、セミナーを通して基課題の調査設計や分析について助言を得る。ジェンダー研究・地域研究の専門家である海外共同研究者 Maria Jaschok 氏や, Rachel Spronk 氏など、多くの異分野の専門家と議論を深めることで基課題の調査設計・分析視点を発掘する。

(2) 異分野の研究者と幅広い議論をすることにより、これまで行ってきた研究課題には含まれない新たな視点による事例研究を付加する。これにより、多角的な視野に基づくジェンダーエンパワメントの議論へと発展させる。

### 4. 研究成果

(1) 2018年9月より、6カ月間、オックスフォード大学国際ジェンダー研究センターに所属し Maria Jaschok 氏の受け入れのもと研究を実施した。2018年10月には IGS Seminar Series にてインドの北東部 Meghalaya 州の母系社会において、政治への参加制限が女性の意識に与える影響に関する研究内容を報告(図1)し、国際ジェンダーセンターと外部の文化人類学者、社会学者などさまざまな異分野の研究者から、申請者の専門とする経済学とは異なる視点から概念の定式化、調査方法、今後の課題設定など、新たな視点から有益なコメントを得た。

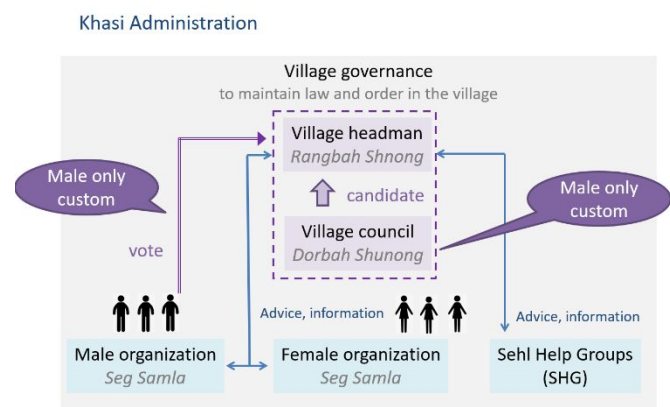


図1. Meghalaya 州の政治システム

2018年11月には共同研究者を英国に招へいし、国際ジェンダー研究センターに所属する研究者らと討論を行うことができた。議論で得た知見をフィードバックして課題設定に取り入れ、インド農村における新たな調査研究を行うことができた。また、滞在中、英国内における研究会に参加し異分野の研究者と意見交換を行うことで国際的なネットワークを広げることができた。

(2) 2019年2月には東北大学国際共同大学院プログラムの訪問団を受け入れ、オックスフォード大学の研究者と今後の連携の可能性について議論した。渡英して議論する中で、研究計画の通りには進行しない部分もあったが、逆に、想定以上に多くの研究者との意見交換をすることで思いがけない新たな視点からの示唆を得ることができ、日本からの英国訪問団を受け入れるなど、計画以上の成果を得ることもできた。特に、東北大学の教員、大学院生、学部生ら15名の訪問を受け入れ、研究者との交流の場を設けることができたことは、今後の研究連携と若手研究者の育成、学生への教育に意義のあることであった。

(3) 2019年3月にはアムステルダム大学に移動し2019年8月まで研究を実施した。アムステルダム大学では、受け入れ研究者である Spronk 氏に、関連する研究者を紹介頂き、共著論文を執筆するための調査研究を行った。インド農村での調査研究については、英国での議論を踏まえた論文を作成し、6月に共同研究者がジェンダー問題に関する国際学会にて成果報告を行った。この国際学会では、並行して進めていた中国農村の貧困削減とジェンダーエンパワメントについて、女性が家庭内の意思決定でどの程度の交渉力を持つか、その決定要因は何かといった問題に関する報告が共同研究者によって実施された。新たな着想を得て開始したジェンダー観と父系社会的な文化に関する研究課題については、文献調査と2次データに基づく国際比較を行った。この成果は、2019年5月にアムステルダム大学にて、学生、研究者、活動家などに向けたセミナーでアジアの父系社会的な価値観がジェンダー観に与える影響について欧州との比較の視点から行った分析に関する報告を行い、文化人類学者や社会学者など異分野の研究者からのコメントを得ることができた。この議論を踏まえて、アムステルダム大学の研究者から重要な文献などの示唆を得ながら市民を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を6月下旬にアムステルダム大学に所属する研究者を対象とした研究会にて報告、討論を行った。これらの研究成果は共著論文としてとりまとめて投稿準備中である。

(4) 2018年の夏季に、バングラデシュのクルナにおいて女性の公衆衛生に関する知識と実践について調査を実施した。南アジアはジェンダー格差が大きな地域であり、バングラデシュでは、女性の公衆衛生に関する知識が特に農村において十分ではない。この点について、都市部と農村部の実態調査を実施し調査結果を国際学会にて報告した。

(5) アムステルダムにおいても、調査研究に加えて、本研究課題の重要な柱である、欧州における国際研究ネットワークの形成も推進した。2019年7月にはアムステルダム大学で開催されたジェンダー政策学会に参加しジェンダー関連の研究者を中心に交流を行った。8月には自由大学を訪問し異なる分野の研究者と意見交換を行い、今後の共同研究の礎となる関係を築いた。新たに得た着想を生かして臨機応変に修正を加えながら基課題を発展させ、ネットワーク形成を進めることができた。

(6) 帰国後、2019年10月には、オックスフォード大学での定期的な研究会での交流を通じて形成したネットワークに基づき、紛争国や難民への人道支援に関するジェンダー研究の専門家である Angela Raven-Roberts 氏を東北大学に招へいし、特別講義を開催した。この時行われた議論が発展し、同席していた若手研究者とともに、難民キャンプにおけるジェンダーエンパワメントという、これまで研究の対象としていなかった重要な課題について研究に着手し、2020年2月には難民キャンプの経済学的なアプローチの難しさや克服方法に関するレビュー論文を執筆した。難民キャンプでのインタビュー調査が困難であることから、政治学的・社会的なマクロ視点での記述に留まる研究が多いが、近年、サンプル数は少ないものの難民キャンプ内の家計調査に基づく分析が進みつつある。女性の暴力を根絶するためには、このような実態把握が欠かせないため、現在、ミャンマーからバングラデシュに避難しているロヒンギャ難民を事例として新たな調査研究を開始している。

(7) 2020年3月には、インドの共同研究者を招いて研究会を実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。この点については、本プロジェクトで築いたネットワークを今後の教育研究に活かすため、2020年度以降、別の機会での交流を検討している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Minakshi Keeni, Nina Takashino, Katsuhito Fuyuki	4. 巻 6 (2)
2. 論文標題 Women's Issues in Meghalaya: Role of the Government, NGOs, and the Village Leadership	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Gender and Women's Studies, December	6. 最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15640/ijgws.v6n2p10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Keeni, M., Takashino, N., Nongkynrih, A.K., and Fuyuki, K.	4. 巻 2 (2)
2. 論文標題 Women Empowerment in a Rural Matrilineal Society of Meghalaya, India.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Asian Rural Studies	6. 最初と最後の頁 144-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sefat-E-Zerin, M., Takashino, N., & Fuyuki, K.	4. 巻 6(10)
2. 論文標題 Challenges of Women Agricultural Laborers in the Northern Part of Bangladesh.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Advances in Social Sciences Research Journal	6. 最初と最後の頁 225-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Longkui Wang, Nina Takashino, Katsuhito Fuyuki	4. 巻 36 (2)
2. 論文標題 The Effect of Rural-to-urban Labour Migration on Poverty Reduction in Ethnic Poverty-stricken Areas of Western China	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of rural society and economics	6. 最初と最後の頁 73-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Minakshi Keeni, Nina Takashino	4. 巻 51
2. 論文標題 Literature Review on Stateless Refugees: With Emphasis on Violence Experienced by Rohingyas	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Farm Management Economics	6. 最初と最後の頁 38-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Minakshi Keeni, Nina Takashino and Katsuhito Fuyuki
2. 発表標題 Importance of women participation in the Dorbar Shnong: case Study of Meghalaya
3. 学会等名 6th International Conference of Asian Rural Sociology Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Longkui Wang, Nina Takashino, Katsuhito Fuyuki
2. 発表標題 Women Labour Migration and Its Impact on Household Decision-making Power in Northwest China
3. 学会等名 6th International Conference on Gender & Women's Studies, Kuala Lumpur, Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minakshi Keeni, Nina Takashino and Katsuhito Fuyuki
2. 発表標題 Tribal culture & religion and its impact on women empowerment: A study on the Khasis of Meghalaya
3. 学会等名 6th International Conference on Gender & Women's Studies, Kuala Lumpur, Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gulsan Ara Parvin, Nina Takashino
2. 発表標題 Menstrual hygiene: Comparative study of urban and rural schoolgirls of Khulna, Bangladesh
3. 学会等名 6th International Conference on Global Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 福井 清一、三輪 加奈、高篠 仁奈	4. 発行年 2019年
2. 出版社 創成社	5. 総ページ数 288
3. 書名 開発経済を学ぶ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ジャショック マリア  (Jaschok Maria)	オックスフォード大学・学際的・地域研究学院・研究員	
その他の研究協力者	ラッヘル スプロンク  (Rachel Spronk)	アムステルダム大学・ジェンダー研究センター・准教授	